

「ネイチャーポジティブ推進」分科会

構成メンバー(31者)

(株)埼玉りそな銀行

(株)テレビ埼玉

(株)武蔵野銀行

(株)ポラス暮らし科学研究所

(株)モデラート

アサヒ飲料(株)

(株)増木工務店

(公財)埼玉県生態系保護協会

みぬまサウルス企画事務所

(一社)埼玉県造園業協会

羽生市

横沢金属工業(株)

東京海上日動火災保険(株)

新報国マテリアル(株)

(株)地域環境計画

テクセンドフォトマスク(株)

セキネシール工業(株)

ウォータースタンド(株)

日本野鳥の会埼玉

(NPO)いろいろ生きものネット埼玉

飯能市

(株)環境総合研究所

太平電機(株)

(株)サザンプラン

損害保険ジャパン(株)

(株)飯能清掃センター

TOPPAN(株)

(NPO)埼玉環境カウンセラー協会

(公財)サイサン環境保全基金

(公財)日本生態系協会

新座市

分科会における令和7年度の活動実績について

キックオフイベント

開催日：令和7年7月30日

概要：企業が生物多様性保全に取り組む重要性等について事例を交えて紹介

参加者数：77名



市町村・企業・団体の交流会

開催日：令和7年10月21日、11月7日、11月28日

概要：12市町によるNPの取組活動候補地の紹介、候補地で取り組める生物多様性保全の取組について企業、市町村、団体に意見交換

参加者数：延べ82名



意見交換会(入間市／飯能市／新座市／草加市)

開催日：令和7年12月12日、18日、19日、22日

概要：活動候補地の視察と事業化に向けて企業、市、団体に意見交換

参加者数：延べ29名



ネイチャーポジティブ推進分科会

<2>

埼玉県ネイチャーポジティブ推進分科会キックオフイベント

1 基調講演

「ネイチャーポジティブに対する世界の動向」
環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室



2 パネルディスカッション

「ネイチャーポジティブ経営が拓く新しいビジネスチャンス」

【パネリスト】

環境省

日本生命保険相互会社

(株)埼玉りそな銀行

【ファシリテーター】

合同会社西埼玉暮らしの編集社



3 市町村によるネイチャーポジティブの取組事例紹介

戸田市 環境経済部 みどり公園課



市町村・企業・団体の交流会（全3回）

ミニセミナー （一社）CSV開発機構



12市町による 活動候補地の紹介



参加者間での意見交換



主な意見

- ・ 県内の様々な企業、団体の話が聞け、非常に有意義な時間となった。
今回交流した方々と良い関係、連携をとって、今後の活動につなげたい。（企業）
- ・ ネイチャーポジティブに対して様々な業界が興味を持っていることを知る貴重な機会となった。（団体）
- ・ 自分たちだけでは学ぶことができない生態系に関する情報や提案、企業の考えをいろいろ聞くことができ、非常に勉強になった。（市町）

ネイチャーポジティブ推進分科会

<4>

事業化に向けた意見交換会

入間市

開催日：12月12日
場所：加治丘陵
(山林/約424ha)
参加者：7団体



飯能市

開催日：12月18日
場所：有間エリア水源林
通称「クマタカとヤマネの森」
(山林・森林/約650ha)
参加者：5団体



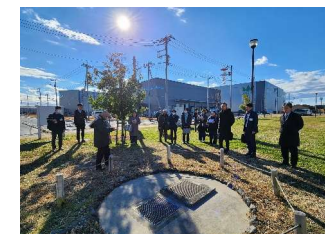
新座市

開催日：12月19日
場所：妙音沢緑地（特別緑地保全地区）
(里地里山・湿地/約3.3ha)
野火止緑地総合公園～こもれび
(雑木林/約2.2ha)
参加者：3団体



草加市

開催日：12月22日
場所：柿木フーズサイト公園ビオトープ
(都市公園・湿地/約0.06ha)
古綾瀬自然ひろば
(水域(湿地)/0.5ha)
参加者：7団体



ネイチャーポジティブ推進分科会

<5>

意見交換会 in 入間市

参加企業：(株)増木工務店／サンケン電気(株)／(株)飯能清掃センター／損害保険ジャパン(株)／アサヒ飲料(株)／(株)地域環境計画／(株)埼玉りそな銀行

企業からの主な意見

- ・ムササビ、カモシカがいることは加治丘陵の自然の大きな特徴の一つといえる。
- ・単なる森の生態系に関する課題解決だけでは取組は続かない。収益を生む仕組みをどうつくるか。



事業化に向けた展望

- ・「狭山茶(実は入間市発祥)」 「抹茶」を活用した販わいづくり、収益をもたらす事業の創出
- ・ヤマップ等の既存コンテンツや集客媒体とのコラボレーション



意見交換会 in 飯能市

参加企業：(株)埼玉りそな銀行／(株)モデラート／(株)飯能清掃センター／(株)環境総合研究所／(株)武蔵野銀行

企業からの主な意見

- ・エリアごとに作業メニューを提示し、好きな取組を選んで参加できる仕組みを作ってはどうか。
- ・外部(別部署&別分野)の方のほうが『森の価値』をわかっている。この意見を事業化の核にしては。



事業化に向けた展望

- ・既存の地域資源を活用した取組メニューの確立
【観光】名栗カヌー、釣り、西川材、自転車
- ・商工会議所や観光等別分野での取組を行う団体との連携による事業創出、そのための部署間連携



意見交換会 in 新座市

参加企業：(株)増木工務店／サンケン電気(株)／アサヒ飲料(株)

企業からの主な意見

- ・ 貴重な生物の生息地なのに地元住民はほとんど知らない状況。まずは知ってもらう取組が必要。
- ・ 他分野では学校や企業連携による取組実績はある。それらの主体を巻き込んだ取組にしては。



事業化に向けた展望

- ・ 「散歩人口が多い」特徴を生かし点在する修景施設を街歩きの巡り収益を生む仕組みづくり。
- ・ 新品種「ミョウオンサワハタザクラ」の活用。
- ・ 商工会議所経由でまずは地元企業との意見交換。



意見交換会 in 草加市

参加企業：(株) 埼玉りそな銀行／大和リース(株)／(株) ポラス暮らし科学研究所／損害保険ジャパン (株)／
(株)環境総合研究所／アサヒ飲料(株)／日本野鳥の会埼玉

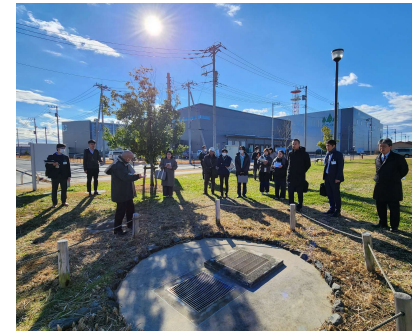
企業からの主な意見

- ・肌感で自然を感じる実体験を伴う活動や参加しやすいことから広く普及させる活動が必要なのは。
- ・作業員の不足を補う作業的な保全活動はCSRの延長で、ネイチャーポジティブの活動ではない。



事業化に向けた展望

- ・「保全」と「保全活動の費用を賄う」取組の整理。
- ・周辺の飲食店やレイクタウンのウォーターレジャー等とコラボした事業展開



今後の展開

○ 企業向けセミナー、企業・市町村との交流会・マッチングを継続

ネイチャーポジティブの重要性や企業が取り組むべき課題、事例紹介などの情報発信を継続して実施

○ 市町村と企業の連携による取組を拡大

緑地等の保全活動に加え、特定外来生物対策（例：クビアカツヤカミキリ）への対応等にも市町村と企業の連携を拡大していくことを目指していく



企業・環境保全団体・行政が連携して、ネイチャーポジティブの実現に向けて活動



プロジェクト事例紹介 ～新座市×テクセンドフォトマスク(株)・TOPPAN(株)の取組～

新座市の概要

位置：首都圏から25km圏内、埼玉県最南端
人口：166,376人（令和7年11月末現在）
面積：22.78km²

野火止緑地総合公園(こもれび)の概要

位置：市域中央部、新座市野火止4丁目
面積：約2.2ha
特徴：首都圏近郊緑地保全法に基づく
平林寺近郊緑地特別保全地区に指定



野火止緑地総合公園(こもれび)の状況

① 樹木の高齢化・高木化

⇒財政事情により、十分な剪定・伐採予算が確保できず
放置されている木々が存在し、倒木等の危険性がある



② 未活用資源の増加

⇒ナラ枯れ等により伐採された木々が残置され、
二次利用に課題がある



本取組に期待すること

適切に樹木を管理しながら、伐採木の二次利用が効果的
に行われ、森林が循環的に活用される仕組みづくり

ネイチャーポジティブ推進分科会

<11>

プロジェクト事例紹介

～新座市×テクセンドフォトマスク(株)・TOPPAN(株)の取組～

はじめに・・・TOPPAN朝霞事業所（テクセントフォトマスク（株）、TOPPAN（株））

朝霞事業所では、2013年より埼玉県生態系保護協会・日本生態系協会と連携し、使用しなくなった排水処理施設内の池を再利用し、希少生物や希少植物の保全を行っています。この活動において令和5年度彩の国埼玉環境大賞では優秀賞を受賞、2025年10月には自然共生サイトに認定されました。当事業所では自然共生サイトの次の取組みとして、新座市と連携した緑地再生プロジェクトを計画しています。



希少な保全対象生物 3種

魚類		甲殻類
ホトケドジョウ	キンブナ	ヌカエビ
		

希少な保全対象植物 7種

植物						
ハンゲショウ	ノカラマツ	タコノアシ	ノウルシ	ハハコ/クワズミソク	フジバカモ	ホソバオグルマ
						



ネイチャーポジティブ推進分科会

<12>



プロジェクト事例紹介

～新座市×テクセンドフォトマスク(株)・TOPPAN(株)の取組～

■緑地再生プロジェクト

目的:かつての「武蔵野の雑木林」を再生することにより、地域の生態系の回復を目的とする。

※武蔵野雑木林・様々な樹齢の樹木が混在する林

①樹木の高齢化対策(樹木を15年で更新する)

a.どんぐりからの苗木づくりと植樹(毎年実施)

・秋にコナラやクヌギなどのどんぐりを採取し企業で発芽させ、3～4年間後に植樹する。育成は小中学校にも協力頂く計画。

b.更新期を迎えた樹木の伐採(毎年実施)

・直径15cm程度の樹木はノコギリで伐採し、15～20cmの樹木は試験的に「巻き枯らし」で枯らす。

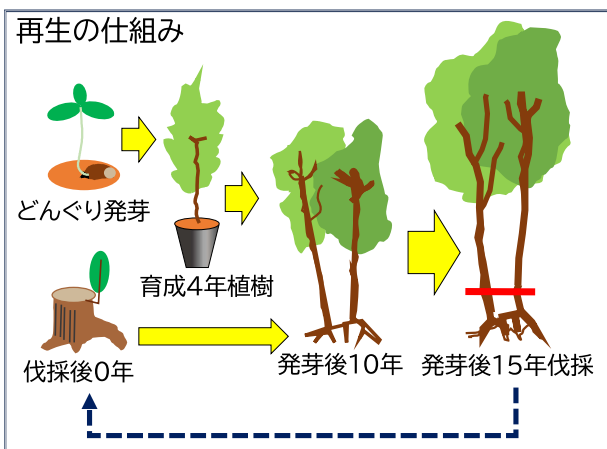
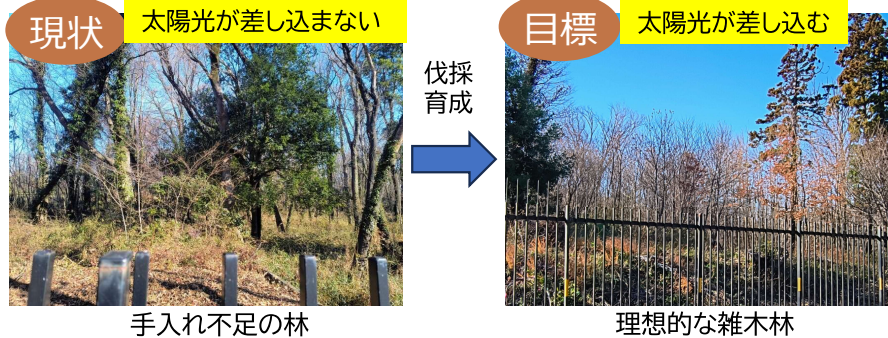
②未活用資源の活用

・バイオネスト(堆肥作り)、薪作り、しいたけ栽培など検討。

※巻き枯らしは安全面で専門家指導のもと行う。

※巻き枯らし後の樹木の分解過程は社員や学校への教育コンテンツとする。

<連携団体:新座市みどりと公園課/環境課、(公財)日本生態系協会、TOPPAN(株)、テクセンドフォトマスク(株)、市内学校など>



樹木の高齢化対策



ネイチャーポジティブ推進分科会

